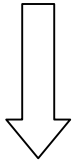


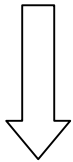
第3回ワークショップの進行状況

前回のWS結果報告



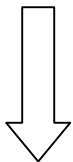
前回のワークショップで各地区の参加者から出た意見の概要が紹介され、自分が参加していない地区の意見も知ることができました。

作業の進め方について説明



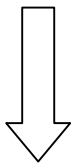
来年度から実施可能な地域活動について、具体的にいつどこで誰がどのように実施するか企画するための流れを説明しました。

活動内容の選択



前回のWSで挙げられた活動内容から、自分たちがやってみたいと思うものを3つ選びました。“活動メンバーの固定”などの問題がある地域活動に“防災・防犯”の要素を取り入れ、①地域の人を集め、②今すぐでき、③地域で盛り上がることを選定の視点としました。

行動計画の作成



選んだ活動内容について、いつ、どこで、誰が、どのように実施するかを決めます。住民全員参加を目指し、自分たち自身が活動する計画とします。この結果は、各小学校区の行動計画として、全国に発信されます。(右の写真が実際の行動計画です)

グループ発表

各グループから発表者をひとり選んで、それぞれのグループで出された意見を発表しました。各グループの考えをワークショップ参加者全員で共有することができました。



有明台小学校区
 平成21年2月23日(月)午後7時から
 有明台小学校視聴覚教室にて
 参加者：24名

第3回ワークショップ
みんなで考えた
有明台小学校区の行動計画

Aグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・コーディネーター、リーダーの育成 ・防災運動会、防災訓練 ・母親を集める活動	・9月27日(日)	・有明台小学校	主催 ・有明台校区自主防災会 ・有明台小学校区コミュニティ協議会 参加者 ・地域住民 支援 ・新潟市 ・新潟市中央区 ・消防団、消防署 ・防火連合・防犯協会・安全協 ・民主協・婦人会 ・スポーツ振興会	・子どもに視点を向けた防火訓練 ・防災駅伝ゲームを試みる ・おじいちゃん、おばあちゃんを守るために、 <u>君たちは何ができますか</u> (防災くんれん)啓発ポスター ・健康のテーマや検診を取り入れるなど工夫(妊婦、検診など) ・防災や防犯のセミナーフォーラム、研修等の開催、啓発(防災教育) ・ゼロメートル地帯の人★必ず出してもら ・学校や企業の屋上★上げてもらい、地域を知る・時間を短くして参加しやすくする ・★だけでなく、焼そば、豚汁など提供	・水害が一番怖い ・災害の記憶が風化している ・日常からの住民との会話が必要である ・避難しようとしないう高齢者が多い ・液状化が心配である ・どちらの避難場所に避難すればいいかわからない ・防災訓練の参加者が固定している ・雨が降るとすぐ冠水する場所がある・災害時の連絡方法を決める必要がある
・清掃活動 ・母親を集める活動	・4月5日(日) 9月6日(日)ごろ ・8月23日(日)ごろ ・7月(小学校)平日	・校区全域 主に信濃川河畔 関屋分水河畔 ・関屋中学校裏 海岸清掃 ・1区自治会	主催 ・有明台小学校区コミュニティ協議会 主催 ・関屋大川前一区自治会 参加者 ・一区自治会町民 参加者 ・有明台校区住民	・学校と地域が個別に実施している海岸清掃の合同実施 ・回覧板だけでなく、 <u>学校PTAにも呼びかけ</u> ちらしの配布 ・子どもに参加費を出すなど(宝もの探しなど取り入れる)	・世代交流 ・子どもの環境衛生の関心度を高めて(環境教育) ・ひがん花の植栽を同時に!
・母親を集める活動 ・お楽しみ会&餅つき会	・11月15日(日) ・12月6日(日)ごろ	・有明台小学校 ・同上	主催 ・関屋大川前一区自治会 主催 ・有明台小学校区コミュニティ協議会 参加者 ・有明台小学校区 住民 参加者 ・一区自治会 町民	・子どもの参加可能なイベントを考える <u>中学校 高校生の参加</u> (ダンス部呼びかけ) ・バザーの実施(女性は「バザー」という言葉が大好き) ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり(食べる、作る、見る、体験する、選べる) ・子どもにはお菓子、大人には商品券など景品を用意 ・子どもと両親と一緒に呼べる企画づくり	・世代交流 ・文化・伝統の継承 ・子どもの素顔が見える(地域住民の応援隊。学校生活が見えて喜ばれる) ・工夫することによって(創作活動)地域の大人とのふれあいが増す

Bグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・防災運動会 ・防災検定	・秋(9月～10月) 1回/年	・有明台小学校 (グラウンド)	活動主体 ・自主防災会(コミ協) ・スポーツ振興会 参加者 ・一般 ・小学生、中学生 ・事業所 支援者 ・ヤマダ電機さん他地域内の事業所 ・学校、PTA ・消防、警察	・子どもにはお菓子、大人には商品券など景品を用意 ・行政は、立ち上げ時だけでなく、継続するための支援をする ・各世代の人による企画づくり(例えば、PTAの方に主体的に参加して頂く) ・チーム(町内)対抗で盛り上げる ・地元企業から協賛を募る ・防災博士号(認定書)を授与することによって、防災知識の高揚につなげる ・声掛けで参加者を募る ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり(食べる、作る、見る、体験する、選べる)	・防災訓練の参加者が固定している ・避難しようとしないう高齢者が多い ・あいさつが少なくなってきた ・液状化が心配である ・どちらの避難場所に避難すればいいかわからない ・水害が一番怖い ・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない ・雨が降るとすぐ冠水する場所がある
・地域の写真 ・発表会	・秋(11月頃) 小学校の文化祭とあわせる 1回/年	・有明台小学校 (体育館)	活動主体 ・自主防災会 ・PTA 参加者 ・小学生、中学生 ・地域内の愛好家 支援者 ・ヤマダ電機様	・文化祭と同時開催することにより、多くの参加者 ・展示会後に(優秀作品)はヤマダ電機に展示してもら ・第一高校の写真部に呼びかける ・年代別に賞を設ける ・自治会が地元の愛好家に声をかける	・災害の記憶が風化している ・高校生を活用する必要がある ・地域をよく知らない方に、地域を知ってもらう ・アパートの人のことを知らない ・日常からの住民との会話が必要である
・お楽しみ会 ・もちつき大会					

Cグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・父親、母親が参加する運動会	・9月	・有明台小学校	主体 ・学校 ・地域コミュニティ協議会	・地域にはイベントを運営するノウハウはある ・父親と母親を呼ぶ ・地域マップの配布 ・運動と健康 ・健康診断 メタボ検診 ・どの世代にとっても魅力的な企画づくり(食べる、作る、見る、体験する、選べる)	・日常からの住民との会話が必要である ・あいさつが少なくなってきた ・防災訓練の参加者が固定している ・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない
・地域全体のサマーキャンプ +きもだめし +文化活動	・7月下旬	・有明台小学校	参加 ・地域住民 ・児童生徒 支援者 ・医療検査機関 (or 医療機関) ・消防署	・母親の負担をへらす 朝ごはんをアルファ米 ↓ お年寄りを活用 ・ケガとか心配なため、ボランティアを募集 ・子供100人以上 → 親30人以上 ・子どもと両親を一緒に呼べる企画づくり ・料理人を活用 ・高校生への広報 → 活用	・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない ・高校生を活用する必要がある
・子供教育地域マップの作成 ○有明台の歴史マップ ↓ 街の発展 ○地域の危険な所の写真展(防犯・防災) ○子供教育 地域マップの作成	・10月	・有明台小学校	・警察	・地域安全DVDの作成(いつでも、何度でも見れる) ・防災運動会で活用 地域防災マップを“下敷きにする” ・文化祭の活用(歴代の写真、アルバム) ・古い写真の提供 ・創立記念日に作成したDVDがよかった(昔の有明台) ・今までのノウハウを使う	・災害の記憶が風化している ・災害や犯罪情報などについて、地域掲示板を店舗などに置かせて欲しい ・お年寄りの所まで子供が出向き、清掃活動と防災・防火パトロール ・薬師神社の祭 春→民謡 秋→関屋六階節

Dグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・防災運動会	・10月末(年1回) ・午前中から昼食にアルファ米	・小学校	・自主防災会が主催(午前)	誘い合う ・中学生にアルファ米おかわり競争 ・危ないことはさせない(子どもにケガさせないように保険に入る) ・車をまわして高齢者を集める ・3人1組(友達を誘い合う)などグループで参加する ・大人と子どもで3人を1グループとして参加してもらう ・チーム対抗 現状:町内会単位 ・子どもと両親を一緒に呼べる企画づくり	・アパートの人のことを知らない ・日常からの住民との会話が必要である
・清掃活動	・年1回 秋の公園清掃	・公園	・全町内会にて一斉に	・腰かけを用意する(高齢者のために)	
・母親を集める活動				人が集まる場所から ・進学など子供に関する情報提供をする ・幼稚園には母親がたくさん集まる。そこに防災の専門家が講習を行う ・まずは母親に地域活動を知ってもらい、父親を動かしてもらう	・30歳～40歳の人が率先して動ける組織がない

松浜小学校区

平成 21 年 2 月 24 日 (火) 午後 7 時から
北出張所大ホールにて
参加者 16 名

第 3 回ワークショップ みんなで考えた 松浜小学校区の行動計画

A グループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・地引網 ・合同	・7 月最後の日曜日	・海岸	・町内会 ↓ ・育成協、コミュ協 ・松浜自治振興会	・市の予算で地域の掲示板 ・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教える ・催事の準備を通して交流 ・人が来れば防犯につながる ・若い人が多い消防団の活用 ・地域外の人と呼ぶ ・回覧板の充実 ・海の危険性を教える ・イベントの日“花火”	・ゴミが散乱している モラルの低下? ・外国人との言葉の問題 (コミュニケーション) 留學生が参加している ・地震時の津波が心配 ・コミュニティの希薄化、疎遠化
・松浜祭 ・盆踊大会	・8 月 24 日、25 日 ・8 月 17 日	・稻荷神社 ・商店街	・商工会 ・本町 1, 2 商店街	・鎮守まで人を呼ぶにはスタンプラリー ・祭りのコーディネーターが必要 ・観客席を作る ・小学校の連絡網をうまく使う ・運営資金を集める ・民謡を流す ・運営 (仕方) も工夫する必要あり ・中学生に祭りの山車をつくってもらい ↑ 予算を出すから出してみないか	・コミュニティの希薄化、疎遠化
・小・中学生 ・あいさつ運動					

B グループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、 支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・町内で老若男女が集まり何かの大会 町内運動会 元旦マラソン ソフトボール大会 (昔はやっていました)	・春と秋 ・春と秋 2 回	・中学グラウンド→ (避難場所) 高い所にあるので (小学校は少し低い所にある) ・コミュニティセンター ↓ 北地区スポーツセンター	・自治会長が呼びかけ ・主催はコミュ協 ・青年部 ・消防団	・町内対抗バケツリレーゲーム等を行う ・地域にとけこむ先生がいると、小・中学生も呼びやすい ・育成協とコミ協の協議 ・小学校の連絡網をうまく使う ・若い人が多い消防団の活用 ・広報誌を工夫する ・催事の準備を通して交流 ・自治会が地域の人の能力を引き出す ・楽しみとなる企画作り (景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会)	・地域全体での防災リーダー育成が必要 ・会議参加者が固定化している
・清掃活動とイベントを合わせて実施	・海岸清掃は「海の日」(7 月の第 3 月曜) ・町内一斉清掃 毎月 1 回 ・公園清掃 毎月か 2 ヶ月に 1 回 ・下水清掃 5~10 月 毎月か 2 ヶ月に一回	・海岸 ・自治会館 イベント ・公園 清掃後イベント ・コミュニティセンター (イベント) ・空き地 防災テント	・主催 自治会 ・町内全員 (対象者) ・支援者 北区役所 ゴミ袋建設課 収集	・バーベキューで火の始末を子供にやらせ、子供に火の扱い方を教える ・海岸清掃と防災キャンプを一緒にやる ・広報誌を工夫する ・楽しみとなる企画作り (景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会) ・活動内容を詰め込みすぎない企画 (大事) づくり ・清掃 アルファ米のたきだし ・カレー 豚汁 ・アパート主に参加呼びかけを頼む ・危険な場所の情報交換	・落ち葉の清掃をしない人が増えている ・ゴミが散乱している モラルの低下? ・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・アパートと交流がない ・児童の交通事故が不安 ・地震時の津波が心配
・青空サロン	・月 1 回	・松浜園の下 (工事中だが終わったら使わせてもらえる) ・市場通り	・コミ協福祉部 (主催) ・買い物に来る近隣住民 (参加) ・松浜園 (老人ホーム) (支援) ・部活帰り中学生 ・地区外の人に来る ・コミ協 (支援)	・雨でもつかえる場所 ・コミ協から新しいテーブルとイスの用意 ・もっと PR ・危険な場所の情報交換	・独居世帯に情報が伝わるか心配 ・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・アパートと交流がない ・児童の交通事故が不安 ・地震時の津波が心配

Cグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・松浜祭	・8月1回/年	・松浜小学校区全体	活動主体 ・それぞれの自治会 ・松浜稲荷神社 ・北新潟商工会 参加者 ・全員だけど特に、地域を離れた子どもや家族 支援者 ・中学生 ・警察の方 ・商店街、企業	・中学生に祭りの山車をつくってもらおう ・催事の準備を通して交流(みこしを皆でつくる) ・高齢者が楽に見て参加できるスペースを確保する(車イスのスペースなど) ・ひとり暮らしの高齢者を誘って参加してもらおう ・広報誌を工夫する	・独居世帯に情報が伝わるか心配 ・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・若い世代の参加が増える
・防犯・防火パトロール	定例は12月1回/年 ↓ 近い将来は1回/月	・松浜小学校区全体	活動主体 ・自治振興会 ・コミュニティ協議会 ・育成協 参加者 ・各自治会の防犯員 ・コミ協、育成協のメンバー ・昼間に地域にいる人 支援者 ・自治振興会自身 ・警察の方や消防の方	・自治振興会、育成協とコミ協等の協働 ・小学校の連絡網をうまく使う ・小学校の登下校にあわせて実施する ・若い人が多い消防団の活用 ・町内の人がいれば行きやすいので、各町内から一人は必ず出席	・中国人やロシア人の防犯問題 ・犯罪の不安や出火の心配が解消 ・地域全体での防災リダ育成が必要 ・松浜地区だけで対応できるのか不安
・青空バザール +カラオケ大会 +その他	・夏と秋7月、10月2回/年	・松浜商店街+松浜小学校グラウンド	活動主体 ・商店会 ・コミ協も参加 参加者 ・全員 支援者 ・自治振興会	・楽しみとなる企画作り(景品、豚汁、芋煮、大人子供が参加する抽選会) ・公共施設を使いやすくする ・学校を活用する	・多世代の参加者が増える

Dグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・若い人が参加したいと思うような行事をアンケートで調べる ↓ ○野球大会 ○将棋大会 ○麻雀大会	・春休み試験が終わる頃	・アンケートで決める	・コミ協	・若い人を集める ↓ ・集まってもらったら5分でよいから、防犯・防災の話を	・地域のイベントの参加者が固定化している
復活 ・盆おどり 踊りを覚えて発表会 子供は一時間くらいでおどりを覚える ・子どもだっこ(松浜だっこ文化継承)	・年1回 夏 ・2日続けて ・盛り上がっている時に終わりにならないように時間はたっぷり(夜11時まで)	・学校のグラウンド(なかなか貸してくれない) ・1日目:小学校 2日目:中学校	・育成協とコミ協の協働 ・地方に共同主催をお願いする(謝礼はするが...) ・盆おどり保存会 松浜だっこ保存会	・不用品の一品寄付を参加費にする ・苦情(うるさい)が来ないように周辺住民には○事前をお願い ○地域の旅行に行ってもらおう ・盆おどりが終わったらグラウンド清掃、ローラーかけ ・学校を会場にすれば、卒業生が集まりやすい ・学校に協力してもらおう ・子どもがケガをしないように ・祭のときに育成協が防犯パトロール ・祭のときに防犯・防災の実践活動 ・祭のあとでみんなで後片付け(学校はみんなの施設)	・コミュニティの希薄化、疎遠化 ・外国人との言葉の問題(コミュニケーション)
・ラジオ体操祭+バーベキュー	・年1回 夏 日曜	・学校	・700~800人集まる 親子で来れば倍	・生ビール販売の収益を資金源とする	
・青空バザーで、バザー不用品交換会					

亀田西小学校区

平成 21 年 2 月 25 日 (水) 午後 7 時から
 江南区役所 302 会議室にて
 参加者：26 名

第3回ワークショップ

みんなで考えた

亀田西小学校区の行動計画

Aグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ大会 ・ソフトテニス ・太極拳 ・新たに運動会を復活! 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に5,6回の種目別教室 ・地区運動会は年1回、秋? 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の体育館 ・西中学校区と東中学校区、合同で。 ・アスパーク(でやりたい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・主催 スポーツ振興会(体育指導員) ・(種目によりちがう)子ども~70才台 ・小学校の学校開放の団体に手伝ってもらっている ・今は6:4で女性が多い ・1学校区(中学)で10万円の補助金 ・地域コミ協にも入ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加費(100~200円)商品出す(★) ・参加商品で人を集める ・自治会長経由で周知してる ・14自治会で協力。対抗戦も 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代間の交流が必要である ・隣人同士の絆の再構築が必要である ・親同士も子育てを中心に交流が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・地域見学 ・工場見学、名所巡り 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1,2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防、警察を見学 ・亀田製菓(今は小学5年生がやっている) ・ショッピングセンター ・市場、お寺、梨畑 ・地元の資料館 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校(主) 工場や地域(支援)を回る時は父母のボランティア ・子ども達 ・土地改良区(歩け歩け大会をやっている) ・大人がボランティアで見守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・亀田製菓と連携して工場見学を行う ・小学校の授業(クラブ)発表会を地域の人を呼んで開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代間の交流が必要である
<ul style="list-style-type: none"> ・お祭り 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回 お盆前後 ・一日の所と2日間の所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・神社 ・公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・主催 神社の氏子 ・主催 自治会 	<ul style="list-style-type: none"> ・男性に役割、目的を植え付け、父親の引きこもりを防ぐ ・盆おどりは景品出してる ・中学生に役割をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は地域の宝である

Bグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練 ・地震車、はしご車、非常食の試食 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月7日(今年で3回目) ・10:00~12:00 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミ協が主催 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する魅力づくり ・中学のクラブ活動の一環で地域の防災訓練に参加してもらおう →救助隊の体験(救護服を着るなど) ・スポーツ団体など若い人が含まれる団体そのものに呼びかける ・中学生に子どもの世話をするなど地域の役割を与える ・起震車、はしご車など子供が参加できる体験型イベントを実施する ・人気のある起震車で整理券配布→役割をつくってみんなで参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を防災訓練に参加させたい →600名児童の避難が不安である →要支援者は決めたが、訓練していない
<ul style="list-style-type: none"> ・下校パトロール+あいさつ運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期の隊と不定期の隊 ・下校パトロールは今年で4回目 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路 ・イオン巡回(育成協) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯パトロールは12団体ある ・うち6隊は定期的にパトロール 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつのできる地域に ・子どもと地域の人が一緒にパトロール ・子どもと地域の大人が危険箇所を点検 ・まずは大人からあいさつして模範を示す ・知らない人にもあいさつ(地域差が大きい) ・登下校の時に家の前に立って子供とあいさつ ・地域の道徳話を、江南区だよりに載せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつのできる地域に ・子どもへの犯罪が多くパトロールが必要
<ul style="list-style-type: none"> ・どんと焼き ・プール開放 ・コミ協が協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年続けて 			<ul style="list-style-type: none"> ・学校に地域活動の掲示板を置いてもらう ・既存の施設を利用し、子どものたまり場をつくり、地域の人がそこに出向く ・江南区だよりの亀西版を発行する ・プール開放の監視役にコミ協 	

Cグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・祭り どんど焼き 菖句流し 地域大運動会 桜花見の会	4回／年 四季	・どんど焼き →西小グラ ンド脇田 んぼ ・菖句流し →本町通り ・桜花見の会 →亀田公園	活動主体 ・自治協議会 ・コミ協 ・PTA ・老人会 参加者 ・全員だけど特に若者の参加 支援者 ・商工会 ・亀田製菓 ・社会福祉協議会	・参加商品で人を集める ・男性に役割、目的を植え付け、父親の引きこもりを防ぐ ・部活など若い人が含まれる団体そのものに呼びかける ・子供が参加できる体験型イベントを実施する ・仮装して参加しても良い工夫 ・最後は“人”である	・多世代間の交流が必要である ・セキュリティが過剰で隣がわからない ・隣人同士の絆の再構築が必要である
・防犯パトロール +清掃活動 +下校パトロール	3回/週 +1回/月 +1回/週 4.25回/週	・地域全体 (亀田西小学校区)	活動主体 ・防犯組合 ・民生委員 ・各自治会 ・隣組 ・自治協議会 参加者 ・中学生、小学生	・中学生に子どもの世話をするなど地域の役割を与える ・大人、中学生、小学生が班をつくって活動する工夫 ・買い物の途中に防犯パトロールを実施。防犯チョッキを身につける ・学校に地域活動の掲示板を置いてもらう ・活動主体にどのくらい中学生や小学生の親が属しているのかをまず知ることから ・公園清掃、廃品回収に子どもも参加してもらうついでに親にも来てもらう ・小学生を中学生が守るような取組みを行う	・中学生は地域の宝である ・いざという時に駆け込める場所を知りたい ・行政からの財政支援が必要である ・ひとり暮らしの家の電気がつかない時は心配である
・いきいきサロン	1回/月	・各自治会の集会所	活動主体 ・民生委員 参加者 ・高齢者 ・主婦	・いきいきサロンを活用 ・囲碁や将棋を教えることで、高齢者の文化祭に若い人を呼び込む ・防災や防犯の講習会を実施	・親同士も子育てを中心に交流が必要
・防災訓練	1回/年	・西小学校	活動主体 ・コミ協 参加者 ・全住民(中学生に参加させたい)	・中学のクラブ活動の一環で地域の防災訓練に参加してもらう ・要援護者訓練を取り入れる	・要援護者は決めたが、訓練していない ・消火栓の場所がわからない方がいる ・中学生を防災訓練に参加させたい

Dグループ

活動内容	いつ実施 (頻度、時期など)	どこで実施 (活動場所)	誰が実施 (活動主体、参加者、支援者など)	どのような工夫	解決する 地域の課題
・防災訓練 +バザー	・6月7日	・亀田西小学校	・コミ協 ・中学生全員 ・地域住民 ・区役所、消防、警察 ・中学校	・企業にも掲示板を作ってもらおう ・江南区だよりの亀西版を発行する ・学校に地域活動の掲示板を置いてもらう ・サッカー部 ・参加商品で人を集める ・中学のクラブ活動の一環で地域の防災訓練に参加してもらう ・子供が参加できる体験型イベントを実施する ・午前中だけで実施	・多世代間の交流が必要である ・隣人同士の絆の再構築が必要である ・行政からの財政支援が必要である ・行政の地域密着が必要である ・最後は“人”である ・屋間は留守宅が多く、人が少ない ・中学生は地域の宝である ・中学生を防災訓練に参加させたい
・工場見学 +名所巡り	・秋	・江南区	・コミ協+PTA ・地域住民 ・企業	・中学二年生の職場体験の活用 ・加島屋 ・亀田製菓と連携して工場見学を行う ・各所マップの活用 ・地域の歴史、地域を知る	・多世代間の交流が必要である ・隣人同士の絆の再構築が必要である ・行政からの財政支援が必要である ・行政の地域密着が必要である ・最後は“人”である ・親同士も子育てを中心に交流が必要 ・いざという時に駆け込める場所を知りたい
あんまり無理をしない					